

■佐藤藤蔵 社会事業家。藩郡代求めと私財を投げ打つ父の意を受け、庄内砂丘植林を完成し藤崎村を開いた。
さとうとうぞう
御蔭参流行・1718＝ 上杉景勝の武将で酒田城代志田義秀が商家に託した遺児の曾孫造り酒屋佐藤藤左衛門の子に生まれる。

・・・・・・・・・1727＝ 9歳：

享保大飢饉・1732＝14歳：

・・・・・・・・・1736＝18歳：

・・・・・・・・・1745＝27歳： 長年の風砂の害で西山砂丘一帯の農民存亡の危機を憂えた郡代服部外右衛門の対策建言を受け、
徳川吉宗隠居 庄内藩から篤志家を募るべく巡回を命じられた鶴岡の僧了重らが酒田に来た際、かねて西山砂丘の植林事業に私財を投げ出し、あわよくば家名を興して先祖に報いようとしていた父藤左衛門が決意を披瀝、直ちに藩に報告され、藤蔵名の願書で認可される。
菅原伝授十・1746＝28歳： 現場近くに代家を建て、多くの人の協力を得ながら、事業に着手するが、植えては埋没し、また植えなおすという苦難の連続で、了重に訴え、仏師に六地藏を彫ってもらって崇めるなどして続け、
・・・・・・・・・1750＝32歳： 村中の念願だった観音堂を建てて鎮守とし、了重の奔走で門葉寺も建立するも、
徳川吉宗没・1751＝33歳： 酒田大火が起こって、佐藤家も類焼するなど、心労多く、
・・・・・・・・・1752＝34歳： *ついに、父藤左衛門は病臥し死去。事業継続を強く遺言され、専念すべく弟に家督を譲ろうとして固辞されるも、かえって協力を誓われ、
山脇東洋解剖1754＝36歳： *一部親類や友人の笑いと反対を押し切って、造り酒屋を廃業し、
自然真営道・1755＝37歳： 一家を上げて植付け地移住、
・・・・・・・・・1756＝38歳： 苗字帯刀御免となり、
宝暦事件・1758＝40歳： *それまでの出精の功で、地域実測図を賜り、郡代に進達する資格と藩老謁見の特典を与えられる。この年、豪商本間光丘が植林事業に参画。
大岡忠光没・1760＝42歳：

・・・・・・・・・1763＝45歳：

田沼意次老中1772＝54歳：

・・・・・・・・・1781＝63歳：

田沼意次失脚1786＝68歳：

異学の禁・1790＝72歳：

松平定信引退1793＝75歳：

昌平黉始・1797＝79歳： *全生涯をかけ、430ヘクタールの植林を成して、没した。

「人づくり風土記(山形)」、